

令和2年度第1回広島県公立大学法人評価委員会議事趣旨

- 1 開催日時：令和2年8月3日（月）14：00～16：00
- 2 開催場所：サテライトキャンパス広島 505 会議室
- 3 出席委員：曾余田委員長・浅田委員（Web参加）・木原委員・山川委員・福田委員
- 4 議 題：令和元事業年度業務実績報告について

（評価委員：○，県立広島大学：●）

- 新型コロナウイルス感染拡大への対応を踏まえ、今後、県大はどのようにデジタルトランスフォーメーションに対応していく方針なのか。
- 新型コロナウイルス感染への対策として、前期授業は原則オンラインで行っている。学生アンケートでは、オンライン授業に対する学生の満足度は高く、大学としても学修の質が確保できていると考えている。オンライン授業は今後も継続していく方針である。
- アクティブ・ラーニングを推進するため、どのような学修環境整備を行っているのか。
- 学生が自習やグループ学修に利用できるラーニングコモンズやCALL教室に可動式の机やノートPCを設置するなど、学生の利便性を考慮した学修環境整備を行っている。
- 大学が掲げる「課題探究型地域創生人材」の育成について、確認するためには、「学生がどう成長したか」と「地域がどう変わったか」の両面からを把握する必要があるが、その指標と把握方法についてどのように考えているのか。
- 学生の成長については、学生の自己評価と客観的評価があると思うが、自己評価ルーブリックに加えて、客観的評価としてアセスメント等を導入するなど、評価指標を明確にしていく必要があると考えている。
- 地域への影響については、学生の就職先等に対してアンケートを実施する方法を検討している。
- アクティブ・ラーニング導入科目の受講率 100%は素晴らしいが、受講してどのような力を身に付けたのかを示すことができるよう、ルーブリックやアセスメントを具体化する必要がある。
- 全体的に学生の授業に対する満足度が高いことは評価できる。一方、満足度が低い授業に対してはどのように対応しているのか。
- 教員の質を上げることが、アクティブ・ラーニングの質を高め、学生の満足度向上につながると考え、平成30年度に教員に対する研修体系を整理し、令和元年度から研修に反映した。
- アクティブ・ラーニングの成果については、アウトカムにこだわる必要がある。アセスメントなど、成果を把握する手法については、いつまでに結論を出す予定なのか。
- アセスメントは、既存のものを導入し、大学に合ったものにカスタマイズしていきたい。第三期中期計画期間中には示せるようにしたい。
- 得ようとする成果を明確にしないと、カリキュラム等を点検するときに何をもって点検するか難しくなる。アウトカムを測る指標はできるだけ早く具体化する必要がある。

(県立広島大学退席)

(評価委員：○，事務局：●)

- 「課題探究型地域創生人材」の育成について、一つの評価手法として卒業生のフォローが考えられる。学生の就職後の状況を定期的に追っていくことで、大学の教育が卒業後に生きているか評価できるのではないか。
 - 「個人のスキル」、「地域の変化」について検討していく必要があると考えている。これまでも就職先へのアンケートは定期的に行っており、その結果等も踏まえながら、検討したい。
 - この度の新型コロナウイルス感染症への対応は実績評価に入れるのか。
 - 今回の評価は、年度計画に対するものであるため、評価項目には、新型コロナウイルス感染症に係る項目はないが、新たな要素として、その他項目で評価案に記載したい。
 - 「課題探究型地域創生人材」育成の成果が現れるのはカリキュラムが一回りしたところからとなるため、結果が出るまで時間がかかる。年度評価で何をどこまで見るか整理する必要がある。
 - 数値目標は、第三期中期計画の6年間でどこまでを目指すかということで設定し、その上で、各年度はこの辺りまでの到達を目指すという形で整理したい。
- ⇒ 委員了解